

第十二回与謝野町蕪村顕彰全国俳句大会
自由題の部 入賞作品

与謝野町俳句大賞

秋澄むや底より始む竹細工

岡山県和气町

高原晴子

京都府知事賞

シスターのおしやべりの声藤の花

岐阜県多治見市

渡辺美晴

与謝野町長賞

母入れて母へ傾けたる日傘

東京都町田市

山本一葉

与謝野町議会議長賞

茶畑を波越すようにわたりけり

京都府綾部市

大槻武揚

与謝野町教育委員会教育長賞

紙皿のカレー大盛り水着の子

兵庫県神戸市

平尾美智男

与謝野町文化協会会長賞

浮石糖の膨れて破れ豊の秋

京都府宇治市

福井貞子

塩見恵介賞

いくたびも髪梳きなほし雛流す

神奈川県横浜市

多田学友

山田佳乃賞

ちりめんの手ざはりのやう与謝の春

兵庫県神戸市

宮本隆三

選評一覽

選者 塩見恵介 山田佳乃

与謝野町俳句大賞

秋澄むや底より始む竹細工

岡山県和気町 高原晴子

【塩見】竹細工の編み込みは、底から作り上げる。澄明な秋の空気の中、地道に作業を進める竹細工職人の生き様が見えるようである。写生句として共感するとともに、竹細工のみならず、人生の箴言として、土台から丁寧に作っていく世界は味わい深く感じられよう。

【山田】農作業が一段落した後の作業として竹細工をされるのだろうか。籠や人形など細く裂いた竹を細かく編み上げて仕上げる作業は竹の香が立つよう秋澄むという季節が響き合う。竹細工をよく知る方ならではの句と思う。

京都府知事賞

シスターのおしやべりの声藤の花

岐阜県多治見市 渡辺美晴

【塩見】本来、静謐な世界に身を置くはずのシスター達も少し乙女に立ち戻ったかのような、藤の花盛りの日。藤棚に無数に垂れ下がる花房のように、穏やかな彩りの会話が続いてそう、明るい気分誘われる一句。

【山田】修道院で静謐な暮しを日々過ごすシスターたち。あまり賑やかなお喋りのイメージはないけれど、「藤の花」という季節で上品でしっとりとしたシスターのおしやべりの様子がイメージされる。

与謝野町長賞

母入れて母へ傾けたる日傘

東京都町田市 山本一葉

【塩見】年老いた母との日盛りの外出。母を日傘の中に入れ、さらに日傘を母の方に傾ける。影を譲る娘のさりげない心遣いに感じられる親子の情愛の深さ。娘、と書いたが、現在は男性も日傘を使う時代。私も試みる機会を待ちたい。

【山田】御母堂様のお世話をなさっているのだろうか。とても暑かったこの夏は、体調を気遣いながらの外出だっただろう。日傘を差し掛けて、母に大方影を傾けるといふ描写で作者の優しい母への思いが感じられる。

与謝野町議会議長賞

茶畑を波越すようにわたりけり

京都府綾部市 大槻武揚

【塩見】急傾斜地茶園を逍遙する人を描写したか。茶の木に見え隠れしていく人の動きを、直接的な比喻ながら「波越すように」と表現したところが清々しい。人てなく、茶園の上空を飛翔する鳥瞰的視点で読んでも魅力がある句だ。

【山田】大きな茶畑は人の丈より少し低く、人が畑を通り抜けられ

るように人幅の筋が何本もある。その様子はまるで海の潮目のようなのだ。人がその茶畑を行き来するとき、海の波を越えていくように感じられたのである。

与謝野町教育委員会教育長賞

紙皿のカレー大盛り水着の子

兵庫県神戸市 平尾美智男

【塩見】丹後には素晴らしい海水浴場が数多くあり、この句もそんなひと夏のスナックにありそう。健康的な空気が漂う。紙皿のカレーは簡便な食事だが、逆にそれが健康的にうつる。大盛りを喜ぶ水着の子の満面の笑顔と、大きな一匙を口に押し込む姿がいと美しい

【山田】夏に好まれる食事といえばカレーライスだろう。紙皿ということで外で調理してよそったカレーが想像できる。水着のまま食べている子供たちの楽しい海辺の様子が想像されて親しみやすい句となっている。

与謝野町文化協会会長賞

浮石糖の膨れて破れ豊の秋

京都府宇治市 福井貞子

【塩見】煮詰めるカルメラが甘く膨れて、弾ける。穏やかな日差しが窓から降り注ぎ、カルメラの甘い香りに、明るい昼下がりの厨が共鳴している。おりしも、稲の実りの素晴らしい秋。「破れ」というネガティブな言葉があるにも関わらず、多幸感が立ちこめる句。

【山田】カルメラは近頃あまり見ることが無いので懐かしく感じた。豊の秋という季節で収穫のあとのお祭りか何かで賑わっている様子が想像される。膨れて膨れてついに破れてしまったカルメラに楽し気な様子が感じられる。

塩見恵介賞

いくたびも髪梳きなほし雛流す

神奈川県横浜市 多田学友

【塩見】流し雛は紙雛で行われるものもあるが、これは古雛を使ったものであろうか。流す前に愛惜を込めてその髪を愛撫する作者の姿。優しい雛の顔もクローズアップされる表現で、胸が締め付けられるような感情が読み手に去来する。

山田佳乃賞

ちりめんの手ざはりのやう与謝の春

兵庫県神戸市 宮本隆二

【山田】丹後ちりめんの産地ということで、与謝野への挨拶句でもある。厳しい冬が過ぎ、心地よい春が来たときの喜びが素直な感動として表現されていて心惹かれる。

自由題の部 入選一覽

塩見恵介選

賞候補

梅雨明のつるんと晴れし街の空 大阪府高槻市 瀬野 浩
一斉にスマホ取出す夕立かな 奈良県桜井市 山下由良男
帰り来て日傘の熱をねぎらへり 兵庫県伊丹市 保理江順子
心臓の機嫌よき日や合歓の花 岡山県岡山市 小松原翠
消毒のガーゼ冷たし梅雨の雲 京都府与謝野町 山田祥雲
臂上げてペダル踏み込む青葉騒 京都府舞鶴市 大瀧和子
ぶつかつて詫びて踊りへまぎれ入る 京都府京都市 神原廣子
その先は江山人庫鳳仙花 兵庫県神戸市 玉手のり子
つきたての餅よ餡子よ祖母の手よ 東京都江東区 市川千恵美

佳作

娘孫来て母の日忙しても嬉し 埼玉県深谷市 安藤悦男
不意に手をつなぎたくなる花野道 神奈川県厚木市 北村純一
しあはせと思ふ幸せ冷奴 愛知県稲沢市 南久美子
言ひたき事存分言つて噴くラムネ 和歌山県和歌山市 中村ただし
知らぬ子に挨拶されて風薫る 山口県山口市 岡本摩綾子
山羊追ふて逆に追われて秋うらら 京都府綾部市 塩尻善英
珈琲のミルク広がる雲の峰 秋田県秋田市 小林万年青
夕焼を小さくたたむ伊根の海 大阪府堺市 森野哲州
薔薇園の深紅が隠すドアがある 愛知県名古屋市 前野砥水
テレビのみ喋べり独居の残暑かな 兵庫県丹波篠山市 酒井八重子
ちりめんの髪飾りゆれ里祭 兵庫県明石市 橋本千佳子
向けられしマイクに照れる祭足袋 京都府八幡市 坂口夫佐子
姉ちゃんはいつもママ役鳳仙花 埼玉県新座市 山本末彦
セルフレジ手慣れし夫や日々草 岐阜県各務原市 広井幹雄
パイナップル売り場で迷子お待ちです 京都府与謝野町 竹下米花
仲人の家まで歩く青田道 大阪府豊中市 戸川富士子
大輪のひまわり咲かす借家かな 青森県弘前市 齋藤日出夫
日に風に遊ぶ秋草牧野園 京都府与謝野町 糸井三紀子
人類は居なくなりますお月様 東京都渋谷区 梶浦道成
老猫の鼓動を膝に聞く寒露 京都府京都市 佐野瑞季

山田佳乃選

賞候補

下駄音を合はせて入る踊りの輪 奈良県生駒市 福田えいじ
風くれば音符を変えし吾亦紅 青森県青森市 神 繁雄
狛犬の呟より垂るる蜘蛛の糸 兵庫県西宮市 岩清水彩香
水切りの八回跳ねて夏がゆく 愛知県岡崎市 近藤承穂
年号の令和馴染めず冷奴 京都府京都市 橋本照子
反抗期めいて西瓜の縞模様 大阪府豊中市 戸川富士子
蟬の殻紙の音して掃き出され 京都府舞鶴市 谷田明日香
さらさらと髪を切る音今日の秋 愛知県名古屋市 尾崎登代

佳作

水うまき与謝野郡や夏つばめ 神奈川県川崎市 戸恒東人
機音のくつきりと秋立ちにけり 神奈川県横浜市 竹澤 聡
ゆつくりと黄昏たたむ未草 岡山県岡山市 伴 明子
秋風や縁の下まで箒の目 大阪府和泉市 西本睦子
久闊を叙す熱爛の減り具合 埼玉県入間市 長澤健次
横糸を燃らば丹後のしぐれける 大阪府堺市 森野哲州
英語より数学よりも雪合戦 長崎県諫早市 麻生勝行
麦茶煮て朝の厨の力瘤 京都府福知山市 芦田美幸
内海へ傾れる棚田稲の花 福井県小浜市 上前永子
かき氷引つ切り無しの空回り 神奈川県二宮町 野谷真治
茫漠と梅雨の薄墨一字観 京都府舞鶴市 新庄富美
橋立の大夕焼の股のぞき 京都府与謝野町 杉本紀子
捕虫網風音ばかり掬ひけり 愛知県岡崎市 松崎成子
竜頭巻く時計を貰ひ入学す 愛知県豊明市 石田立子
夏座布団みな海色の座敷かな 和歌山県橋本市 佐々木久美
田草取影絵のやうに立ち上がる 福岡県福岡市 角野良生
味噌小屋の濃き聞うがつ鉦叩 大阪府交野市 大久保公貴
若狭路や銀杏の洞に観世音 福井県敦賀市 為永香月枝
囃されて肩入れかへる荒みこし 福島県白河市 吉原瑞雲
大店の階段筆筒虫のこゑ 東京都港区 西村淑子